

2022 年 5 月 15 日 午前 10 時 30 分

復活節第 5 主日 主日礼拝

司会 廣瀬一寛
奏楽 徳江由利

讃美歌はマスク着用の上、起立をして歌います。
お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ

(平和のあいさつ 一同)

前奏

招きのことば 詩編 95:1-7

讃美歌 326 「地よ、声たかく 一同

祈り 司会者

《関東教区お祈りカレンダー》

佐渡教会 村上教会 中条教会

(主の祈り)

聖書 旧約 出エジプト記 19:3-16 (P.124)

新約 ヨハネ 15:1-10 (P.198)

メッセージ 『豊かに実を結ぶ』

祈り 川上 盾 牧師

讃美歌 393 「こころをひとつに 一同

献金 一同

(献金感謝の祈り)

頌栄 28 「み栄えあれや」

派遣・祝祷 川上 盾 牧師

後奏

報告・紹介

《5 月礼拝当番》 伊藤普史 西 基和

下境真理子 深町淑子 山田理恵

フランク佳代子 フランク・ディビッド

《本日の集会・行事》

◎ レインボー P 担当者会 礼拝後

〔トイレ改修工事は、現在資材の調達中ですが、
資材が揃わずに待機中の状態です。〕

《今週の集会・行事》

◎ 17 日(火) 牧師、育心こども園

◎ 19 日(木) 10:30 婦人会例会

◎ 21 日(土) 10:00 会堂清掃 D 組

《次週の主日》

◎ 主日礼拝 10:30

メッセージ 『父への願い』 川上牧師

聖書：旧約 創世記 18:23-26 (P.24)

新約 ヨハネ 16:20-24 (P.198)

讃美歌：327, 530, 29

司会：手塚富台 奏楽：金井文子

◎ CS 午後礼拝 13:00

《予告》

◎ 関東教区総会 5/24-25 (於・大宮)

3 年ぶりの対面式(宿泊あり)での開催が予定されています。川上牧師、徳島恵子さん(二日間)、楠元伝道師(初日のみ)が出席します。

《報告》

◎ コロナ状況下での礼拝・役割分担について

コロナ感染者数は再び増加の傾向を見せられますが、その数値に右往左往せず、気をつけながら日常への復帰を目指しています。礼拝式順も緊急事態の短縮形が続いていますが、役員会では少しずつ元に戻していく話し合いを始めています。先週より讃美歌は起立して(ただしマスク着用のまま)歌うことにしました。また、教会全体で担っていた「役割分担」も途切れていましたが、一覧表を復活できるよう調整・準備をすすめていきたいと思っています。

◎ 教会報委員を募集します

教会報委員会では、一緒に紙面づくりに取り組んで下さる方を募集します。年間 4 回発行、各号ごとに編集委員会を開き、アイデアを寄せ合い、紙面を構成します。原稿依頼・回収などが主な働きです。ご協力下さる方は、岩瀬育雄さんまで。

◎ 本日(5/15)は、沖縄本土復帰 50 年の日です。

太平洋戦争末期の沖縄戦では苛烈な地上戦により甚大な被害が生じ、戦後はアメリカの占領下に置かれていた沖縄が、日本に復帰して 50 年目を迎えます。しかし沖縄県民が望んでいた米軍基地の返還は実現せず、今も新たな基地が作られようとしています。この不平等・非対称の関係は教会においても他人ごとではなく、「合同のとらえ直し」という課題があります。近代史の中で、重荷を負わされ続けてきた沖縄の問題を覚え、祈り続けましょう。

《消息》

《先週の集会》

	ジュニア	シニア	家族大人	計
CS 礼拝				
	男性	女性	計	献金
主日礼拝				

《メッセージ》『新しい愛の掟』 川上 盾 牧師

レビ 19:9-18 ヨハネ 13:31-35 (5 月 8 日)

▼ウクライナ戦争をきっかけに「日本も他国の侵略に備え、改憲して再軍備をすべきだ」という意見を述べる人がいる。「憲法 9 条は世界の現実を反映しない『お花畑の空文』だ。現実に合わせて憲法を変えるべきだ」と。▼規則の条文が現実と合わなくなっているのが決定する、ということはある得ることだ(例えば女性の参政権)。しかし「武力による紛争解決の放棄」を謳った憲法の条文を同列に置くことはできないだろう。それは目指すべき理想・目標であり、現実と合わないのであればその現実の方を変えるべきなのだ。憲法 9 条 違反後日本にとって「最も大切な掟」だと思う。▼聖書にもいろんな掟がある。その中で最も大切なものは何だろうか? 福音書には同じ質問をイエスにした律法学者のことが記されている。イエスは答えられた。「心を尽くして神を愛しなさい。自分を愛するように隣人を愛しなさい」。前半は申命記 6:5、後半はレビ記 19:18 に記された掟である。▼いずれもイエスのオリジナルではない。しかし「最も大切な掟何か?」と問われて、この二つのことを答えられたところにイエスのユニークさがある。この二つ胡弓のことでなく、不可分なもの、同じ真理の両面を表すものである。それはもっとも大切な「愛の掟」なのである。▼しかしその愛の掟も、時代の変遷の中で移り変わってきている。隣人愛を命じるレビ記のテキストの直前には、様々な細かい掟めごとが記される。「弱者の権利を尊重せよ。正当な権利を認め合い正直に生きよ」等々。そこには「兄弟」「同胞」「民の人々」といった言葉が出てくる。つまり「隣人」とはイスラエルの民、すなわち仲間・身内のことである。▼ではイスラエル以外の異邦人はどうなるのか。「彼らは隣人ではない」—レビ記の時代の人ならそう答えるだろう。現代のイスラエルには「キブツ」という完全平等な労働された理想の農村共同体がある。しかしそれは壁の内側のことであり、壁の外にはパレスチナ人がいて、武装した兵士が警備をしている。「隣人を愛しなさい」という教えも、「隣人とは誰か」という設定によって、何とでも変わり得る。▼新約の箇所は「互いに愛し合いなさい」と命じるイエスの言葉である。とても大切な愛の掟であるが、それはレビ記の時代から言われ続けてきたことである。しかしイエスは「あなたがたに新しい掟を与える」と言われる。何が新しいのか。それはイエスの命じる愛の掟は、仲間・身内の間にとどまるものではないということだ。▼イエスの愛の掟、それは「敵をも愛すること」を命じる(ルカ 6:27-28)。また「友のために命を捨てる」道を示す(ヨハネ 15:12-13)。私たちは「そんなことは無理だ。とても実行不可能だ!」と思う。しかし、現実と合わないから掟の方を変えるというのではなく、完全な遂行することができなくても、それを目指すべき究極の目標とすることが大切なのだ。